

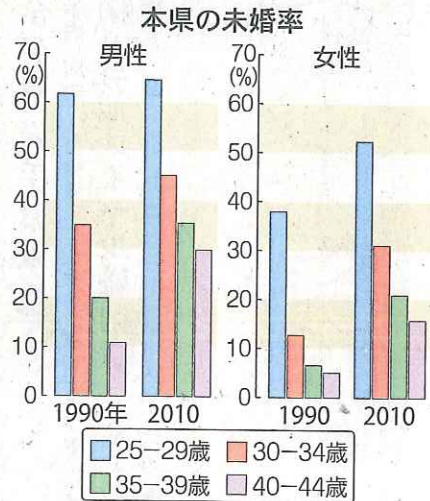
本県でも

進む晩婚化

本県の1975年、95年、2013年の初婚年齢の推移を見る。40〜44歳では20と、男性は26・5歳、28・4歳、30・3歳、女性24・1歳、26・2歳、28・6歳で晩婚化が進行している。未婚率の1990年と2010年の比較では、特に男性の年齢層が上

社会状況が変わり、結婚を取り巻く事情も変化してきている。本県でも未婚率や初婚年齢が高くなり「晩婚化」が進んでいる。その中で少子化対策や子育て支援の一環として、自治体やNPOなどが若者の出会いの場づくりや「婚活」に取り組む例も出てきている。

対策知恵



自治体が婚活事業

て結婚や出会い支援の重要性は増しており、自治体が知恵を絞って

県は本年度当初予算に若者出会い応援推進事業費282万円を計上し、支援者対象のフ

村のネットワーク会議などを企画。補正予算に計上した地域少子化

NPO 親対象のイベントも

始めた後継者出会い応援事業では、実行委を

中心に、町特産の食材を使った料理を提供するパーティーや町内の宿泊施設でのイベントを実施している。温泉は、親を対象にした婚活イベント「親婚」を実施。6月下旬に実施された同イベントに

盛岡市のNPO法人は、結婚や出産、育児の相談を受けてきた中

で、結婚が遅れると妊娠、出産で苦労するという声も聞くという。「家庭や子どもを

対策推進事業費では地域の「イクメン」発掘や若者と親世代の意見交換も予定している。

▽デート券提供
栗石町は2001年度から「農家の嫁不足」対策として結婚支援事業を実施。12年度から

「お節介」が減ってしまった」と指摘する。

同ネットの岡川(おかがわ)事務局長は「今は社会的にセクハラやパワハラという言葉が広まり、(仲人役をする)地域や上司の『お節介』が減ってしまった」と

見合いに臨む予定で、秋頃には親婚を通した結婚希望者同士のパーティーも計画中という。

業委員会の高橋幸一事務局長は「パーティーもいいが、若い人が集まる環境づくりも大切。その中から友人や、ハラという言葉が広まり、(仲人役をする)地域や上司の『お節介』が減ってしまった」と

は結婚希望者の親5人と語り、